

そうだ！三宅に行こう

楽しみ方様々に 充実の夏を



マリンスコーレ・島市 イベントも賑やがに

○商工会主催マリンスコーレ21
フェスティバル

7月30日、31日：ふるさと体験ビレッジ駐車場

島の最大の夏祭りで、島民によるバンド演奏、アカコッコ合唱団、伊豆諸島フラダンスや郷土芸能が披露される。また模擬店や島料理、物産展など各種。

抽選会なども豪華賞品が盛り沢山。最後は花火が海岸を映し出し沢山打ち上げられる。

○島市開催

9月4日(日)阿古お魚センター駐車場、10月末、11月13日(問い合わせ)・商工会Tel 04994-2-1381・観光協会Tel 04994-5-1144。

また、この木の遣りと太鼓は、歌舞伎の坂東三郎が演出する鼓童の舞台にも使われるなど有名である。今年のは土・日・祭日の三連休。島内観光でも楽しめる。

昨年、噴火の危険も少なくなり、安心して三宅島に行けるようになった。夏の三宅島は、ダイビング、野鳥観察、さらにはジオツリズムなど自然とのふれあいを堪能できるほか、勇壮な牛頭天王祭も見どころだ。さらに、7月末にはマリンスコーレも開催される。この夏、ぜひ三宅島に来て、島のよさを知ってほしい。

そうだ、今年の夏は三宅島に行ってみよう！
三宅島は昨年、帰島10年目となり、噴火警戒レベルも最低の1に引き下げられた。全島の居住規制が解除され、安心して三宅島に行けるようになった。三宅島の復興の柱は観光業だ。ぜひご来島して、島を楽しんでいただければ、幸いだ。それが島の復興にもつながっていく。

賑やかに開催された昨年度のマリンスコーレ

三宅島で行われるおもな夏のレジャーを紹介しよう。野鳥観察、釣り、ダイビング・イルカ

牛頭天王祭勇壮に

牛頭天王祭が7月17日(日)に行われる。この祭りは、江戸時代

から続く、神着地区御笏(おしやく)神社の祭りは毎年前夜の夜宮の踊りから始まる。五穀豊饒・大漁・家内安全・無病息災を祈願する。神輿と太鼓、木遣りが三位一体として地区内を練り歩く。牛(頭)が大暴れする様は、噴火・火山の神とされている。昔は神輿でめぐり返すなど荒々しい神輿は、世界でも有数の三宅島雄山噴火の神の喩であるのか？

三宅島新報

発行所：三宅島ふるさと
再生ネットワーク
〒100-1101
東京都三宅島三宅村神着 320-2
Tel. 090-4922-0798
発行人：会長 佐藤就之

事務局便り

○ふれあいコール

8月20日(土)三宅島在住者、在京者を中心に行います。

○世話人会のお知らせ

9月3日(日)19時～21時まで、巣鴨ルノアールにて第45回世話人会を開催します。今回のアンケートの集計結果を基に新報のあり方を話し合います。

○ご寄付のお願い

郵便振替口座

口座番号：00120-3-545036

口座名称：三宅島ふるさと再生ネットワーク

【三宅島ふるさとネット事務局】

郵便番号：173-0005

住所：板橋区仲宿2-1

携帯：090-4922-0798

FAX：03-3964-4065

連絡先 佐藤就之

会長時評

復興・再生のために

長期災害被災地の連携を

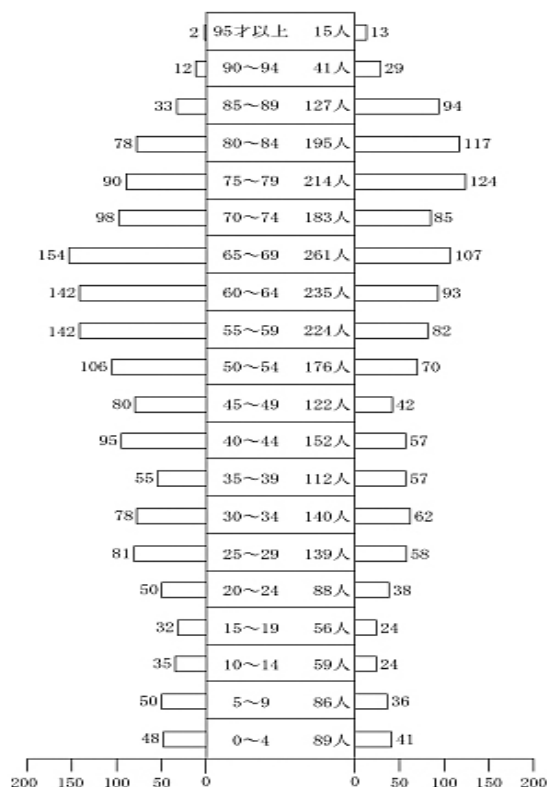
性別年齢別人口構成図（住民基本台帳による東京都の世帯と人口）

（平成27年1月1日現在）

人口 2,714人 世帯数 1,742戸

男 1,461人

女 1,253人



熊本に義援金を

ふるさとネットは、熊本地震災害義援金を、10万4千730円を集めて、5月12日に佐藤会長と光安副会長（三宅支部長）が、三宅村役場を訪れ三宅島からの義援金の一部として渡した。また神楽坂あおぞら市で募金

箱を設けたが、その募金は、板橋区役所の募金箱に納めた。私たちは、17年前の噴火災害で全国の皆さまからたくさんの方々の義援金と物品のご支援を頂いたことを忘れることなく、同じく被災にあっている方々にお返しすることが大切だと思っています。ご

子どもの数は回復傾向

さて、例年の様に東京都三宅支庁は「管内概要平成27年度版」を平成27年11月に発行した。その一部、性別年齢別人口構成図（住民基本台帳による東京都の世帯と

4月に発生し、今も6千人が避難生活を送る熊本地震。ふるさとネットは、三宅島の噴火の際全国の皆さまからいただいた支援を、今度は自分たちが恩返しのために被災地に義援金を送った。一方三宅島では、幼児の数は多少回復の傾向にあるが、生活保護を3人に1人が受ける状況になっており、再生に関し他の長期災害被災地と連携をしながら今後を考えていく必要がある。

人口（三宅村）平成27年1月1日現在。22ページ）を紹介する。ちなみに28年5月1日現在の人口は2千607人、世帯数1千699である。

気になる高校生の進路

この図では、15才から19才は、56人と落ち込んでいるが、その下の年齢は少しずつだが回復傾向にある。すなわち27年は、0才から4才までが89人になっている。

児童福祉の面では、0才から18才までの児童数258人、保育所入所対象児（三宅は1才から5才）で入所児は55人、未入所児29人。東京区部では、0才児の待機児が大問題となっている。なぜなら1年間の育休を取らなければ職場を辞めなくてはならないからである。さて小学校児童は、80人、中学校生徒31人、高校生生徒30人、施設入所（学）児2人である。

増加する生活保護

生活保護法の適用者は、平成27年4月1日現在で75世帯93人である。保護率は33.5%であり、全都の保護率は（21.9%）（注・以上訂正してお詫びします。）

私は、昨年まで準居住地区制限があり、ようやく火山ガスがレベル1になった被災の現実。すなわち長期自然災害被災地として、認識して、その実態、地域、生活、産業をどう再生するかを訴え、社会問題化して福島、東日本被災地、熊本などと共に学び、復興・再生のための連携が必要だとあらためて強調したい。※詳しくは、東京都三宅支庁HP検索↓支庁管内概要↓刊行物について↓「平成27年度版」をご覧ください。

三宅島新報 アンケートにご協力を 新たな紙面づくりのために



本紙を編集するDTPの母体である向上高校新聞委員会が三宅島と関わりを持ったのは、全島避難が行われていた03年のこと。学校新聞で三宅島噴火の避難生活の様子を特集するため、島民ふれあい集会を取材したのが始まりだった。その後、当時島民連絡

三宅島新報が発行されて10年。これまで皆様と三宅を繋ぐ懸け橋として様々な情報を届けてきた本紙の歩みを振り返るとともに、皆さまのご意見をいただき、新たな新聞づくりに生かしていきたい。

三宅島新報に関するアンケート

Q1. 読みたい記事や知りたいことはなんですか？

Q2. どのような記事に注目していますか？

Q3. これまでの三宅島新報についてどう思いますか？

Q4. その理由を教えてください

Q5. その他意見があればお書きください

会の会長を務めていた佐藤会長から、「全島避難指示解除後に、島に帰れない島民を支援するボランティア団体をつくる予定だが、広報紙の発行を手伝ってほしい」という依頼を受けた。その話を聞いた新聞委員会の卒業生を中心に、有志を募ってDTPAが立ち上げら

れ、本紙三宅島新報の発行が開始された。本紙ではこれまで、島の診療所への人工透析器導入を提言したり、在京者の未帰島問題に関して提言を掲載してきた。また、三宅村長をはじめとする各界の方々からの寄稿文や会長時評を通じて、広く三宅の今を知っ

てもらったための努力をしてきた。このほど、ふるさとネットでも検討をした結果、さらにその内容を充実させるため、読者の皆さまが何を新報に求めているのか、またどのような情報を得たいと思っているのかについて、ご意見を頂戴し、今後の新報

づくりに生かしていくためのアンケートを実施することになった。読者の皆様の忌憚なきご意見を、左にあるアンケート欄にご記入いただき、ふるさとネット事務局宛にFAX(03-3964-4065)にてお送りいただきますようお願い申し上げます。

青空フェスタに出店 三宅の特産品を販売



お客さんとのふれ合いも大切に特産物を販売

5月15日に神楽坂で第65回青空フェスタが開催されたのは5月15日。12時30分の開始時間に合わせ、ふるさとネットは三宅島の特産品の販売を始めた。

店は、明日葉や島のりタケノコなどの求める人々で賑わい、タケノコなどは早々に売り切れた。また、商品の購入者に無料配布した唐辛子調味料も人気を博していた。

なお出店に際して、岡太楼本舗様より「牛乳煎餅」を、島民有志の方々より明日葉を、I様より自家製唐辛子

ふるさとネットは5月15日、恒例となった神楽坂青空フェスタに恒例となった三宅島物産店を出店した。今年も明日葉を始めとした各種特産品を取り揃え、店はそれらを求める人で賑わった。

【お便り】

ご寄附をいただいた振込用紙の「通信欄」のお便りを一部ご紹介いたします。

○平松尚志様（在京者・神着）
病弱な自分でも不思議なくらい長生きし、望郷の念にかられ何時も夢を見る古里の細やかな息吹が届く「三宅島新報」が唯一の楽しみにしています。

益々のご健闘をお祈り申し上げます。

○菊池善一様（有限会社モナミック代表取締役）
環境と健康改善で応援しています。頑張ってください。

○A様（在京者）
いままで通信有難うございます。夫も昨年亡くなり娘家族のもとに移転しました。これからも三宅島のことどうぞよろしく願います。遠くから応援しています。

○B様（在京者）
三宅島を忘れないように多くの人のためになる諸活動、広報活動有難うございます。

○竹野内崇安様（朝日新聞記者）
応援しています。引き続きよろしく願います。

○宇田川規夫様（国際救急法研究所理事長）

いつも通信有難うございます。三宅の復興、応援しています。

○岩淵志寿様（元区議夫人）
些少で誠に恐縮ですが気持ちだけ送金させていただきます。何かお役立ていただければ幸いです。

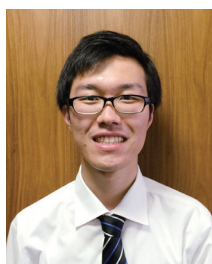
【寄付者名】

高橋栄一様、吉田信行様、栗原未帆様、谷原和憲様、牧田勝彦様、岩淵志寿様、佐藤宗ノ子様、佐藤就之様、菊池千春様、宇田川規夫様、青谷知己様、坂下良子様、竹野内崇宏様、遠藤芙美子様、今井家子様、平松尚志様、横井和之様、緑川圭子様、小曾スミ子様、カキザキタダシ様、(有)モナミック様、四谷信子様、M様、光安千久子様、倉持房枝様、板倉美紀子様、吉島輝雄様（3月14日から6月11日まで）

皆さまのご協力に深く感謝を申し上げます。

DTPA 副会長 青木健史

「島を知ってもらおう手伝いを」



今回、DTPAのメンバーとともに、青空フェスタで三宅島物産店のお手伝いをさせて

いただきました。ふるさとネットのお店を手伝うのは、今回が3回目でしたが、島の魅力とネットの皆さんの姿、そしてそうした品々を、目を輝かせながら選ぶお客さんの姿が残っています。こうしたお客さんとのふれあいの

中では島の魅力を発信してゆくことは、島の現状に興味を持ってもらうことができたり、さらに一人でも多くの人に島に来てもらえるようにするために大切なことだと思っています。今後も、島の物産品を通して三宅島の方々とお客さんを繋ぐお店の手伝いをしていきたいと思っています。

調味料を、副会長光安さんより明日葉・竹の子をご寄附頂き、光安さんには参加もして頂いた。また、出店に際しては神楽坂商店街の皆様のご協力を頂いた。この場をお借りし御礼申し上げます。

編集後記

今号では、三宅の夏のイベントなどを取り上げた。海に山に、夏は三宅島のレジャーに格好の季節です。噴火警戒レベルが1となった今夏、ぜひ

三宅を訪れてください。また、3面には本紙に関するアンケートを掲載させていたいただいている。読者の皆様の忌憚なきご意見を頂戴し、今後の新報づくりに生かしていきます。（DTPA一同）